

渡邊 泉

環境汚染は人類を滅ぼすか？ ～化学物質の利用と汚染概論～

問いかけを、つねに胸に抱き続けるというのは大学生にとって非常に重要なこととなります。世界のものごとをより良くしていく推進力は、間違いなく「問いかけ」と、それに対応していく「実行」のセットです。とくに前者は疑問を抱く能力とも言え、想像力とも言い換えられます。そのため、大学の授業はただ学ぶだけでなく、自分で考え、疑問を発見する能力を鍛える時間でもあります。

さて、地球生態系のなかで、ヒトの存在を特別にしているのは“科学”と“技術”です。大型哺乳類でありながら 74 億もの個体数をほこり、生息する地球環境さえ改変していると考えられていますが、それを可能にしているのは科学技術です。人類が獲得した科学技術は、“容易に死なない（豊かで健康を保つ）”という恩恵をもたらしていますが、一方で、過剰の利用によって自分の首を絞める事態を招いている、とすればどうでしょう？ 模擬講義では、とくに「化学物質の利用」に焦点を当て、現状の問題と、どのように推移してここに至ったか？ それを考えるヒントを提供したいと思います。人類はどこで進む道を大きく曲がったのか、それは“正しいこと”なのか。これからの世界を生きていく上で、将来を担うみなさんが目指す方向はどちらなのか？ われわれ環境資源科学科は「人類の未来を“救う”科学」を追求していますが、その中で、環境汚染の問題に取り組む分野から、上の問いかけのヒントとなる話題を提供したいと思います。この講義から、考え始めてみてください。



図 今も存在する東京都内の、とある重金属汚染地とその化学分析の様子（分析は農工大）